

UAEL

No.16
2016. 10

URBAN AMENITY ENGINEERING lab.

- 1.直島銭湯
- 2.巻頭言
- 3.夏期集中研究
- 4.由利本荘石脇通りのイベント
- 5.由利本荘石脇インスタレーション
- 6.B4建築学研修の成果
- 7.上海理工大学短期留学・新配属メンバー
- 8.OB・OGの今



「直島銭湯」 撮影:田口真也



秋田県立大学 建築環境システム学科 計画学講座 都市アメニティ工学研究室



巻頭言

命より大事な仕事はない

北海道で宇宙ロケットの開発をしている植松努さんという人がいる。ご存じの人もいると思う。私は、直接に存じ上げてはいないが、植松さんの講演や本、Facebookの投稿などに感銘を受けることが多く、よく拝見している。それらの中で、最近、共感した記事があったので紹介する。空港で飛行機が遅延した時のエピソードだ。

<ココカラ>

時々、空港のカウンターや、駅で、大声を上げている人がいます。働いている人を捕まえて、怒鳴りつけています。でも、そんなことしても、飛行機の遅れは取り戻せないし、電車もはやくは動きません。重要なのは、「最善を尽くす」です。

<ココマデ> ※改行は浅野が編集

人はイザという時に本性が現れる。もし、身近な人が上記のような態度をとったら、その人はアブナイ人だと警戒した方がよい。なぜアブナイのか？再び、植松さんの記事から引用する。

<ココカラ>

自分以下を作ることで、自分を守る人は、必要以上に人に説教してくれます。(しかも、内容は傲慢なので、時間の無駄です。)こういう人達に共通しているのは「自分より強い相手には、絶対にやらない」です。この人達がけんかを売るのは、相手が歯向かってこないことがわかっている時だけです。(窓口のひとつか、お店の人とか・・・)相手によって、態度を変えるなんて、とても卑怯な人種です。

<ココマデ> ※改行は浅野が編集

飛行機が遅れた／欠航したからと、直接の原因ではない係員を怒鳴りつけるのは「相手が歯向かってこないと分かっている」からだ。自分を守るため自分以下を作る、取るに足らない小者である。社会的地位が高い人にもいる。

こういう種類の人間が自分の上についたら、できるだけ早期に離れることを模索した方がよい。大丈夫と思うなら頑張っても良いが、あなたの身に何があっても、先方が心から反省したり謝罪の気持ちを抱いたりする確率は低い。無意識に「次のターゲット」を探すだけである。

浅野 耕一 (あさの こういち)
建築・都市アメニティグループ
都市アメニティ工学分野



挑戦するということ

●実は、スポーツをしています

毎週1回以上を目標にして、ランニングに取り組んでいる。先日、陽が沈みかけた頃に子吉川沿いの友水公園を走っていると、高校のボート部だろう、5人のランナーが近づいてきた。スレ違ひざま、先頭から順に「コンチワーツ」と挨拶してくれる。額に玉汗が光っており、息も荒いが、訓練されているのだろう、声はしっかり出ている。

●耐久レース

最初は頭を下げる程度の返答であったが、彼らの声につられて徐々に声を出しての挨拶となった。

4人目が過ぎた頃に、「筑波耐久9時間自転車レース」に参加したことを思い出した。いや、一人で9時間など走り通せない。5人での参加だ。職場の経験ある男女とその友人の未経験な男女、いずれも20歳代後半の4人。そこにランドナーのみ経験ある40歳代後半の私という凸凹チームで、真夏に挑戦した。

2人の経験者にはそれなりに頑張ってもらい、我々3人の未経験者は「動くシケインにならないように。」が合言葉である。朝10:00のスタートから暗くなる7:00まで、F-1マシンのコースをただひたすら己の脚力を信じてロードレーサーで交代しながら周回した。

●挑戦した者が得る感動

抜かれる時は後から「ハイッ!」と声がかかる。注意喚起をして、接触転倒事故を防ぐためである。我々はアマチュアだから抜かれる悔しさより「頑張ってるなー」とつい感心してしまう。しかし、たまには抜く時もある。その時は、抜いていった人の真似して後から声をかける。足にはきついが気分はいい。そうして、炎天下のコースを延々と走り続けるのである。

概ね20分で交代するのだが、制限時間の終了間際はライダーである職場の後輩が35分間を走り通した。最後の周回から彼が戻ってきて、フラッシュが焚かれ、迎えた4人は涙していた。フラッシュの中で、彼は本当にカッコ良かった。順位じゃないんだよな。

そんなことを思い出し、大きく遅れた5人目のランナーとすれ違った時には、こちらから大きく「コンチワーツ」と声をかけていた。

夏の終わりの、他愛のない話である。

山口 邦雄 (やまぐち くにお)
建築・都市アメニティグループ
都市アメニティ工学分野



H28年度夏期集中研究！！

1日目 秋田大学浜岡ゼミと合同ゼミ

合宿1日目の9月5日(月)は、秋田大学理工学部システムデザイン学科土木環境工学コースの浜岡秀勝先生、日野智先生のゼミと合同でゼミを行いました。

土木環境コースは、土木計画や交通工学を専攻する研究室であり、我々都市アメ研は、建築・都市の計画を専攻する研究室です。研究している分野が近いため、お互いの発表に対して質問をして深い議論をすることができました。

都市アメ研からは、3年生の戸嶋・西田のアドバンスト自主研究、4年高橋、須田、東海林、土濃塚、院1年池、勝山の8人に加えて、浅野先生が研究成果の発表を行いました。専門が異なる研究室からの質問はいつもと視点が異なり、改めて自分たちの研究について考える機会を得ました。

例えば、アドバンスト自主研究「ノスタルジックな路地空間の現代的意味と課題」の発表では、路地空間の問題の対応について質問を受け、住民のコミュニティが防災に繋がることを議論しました。3年生は配属直後のゼミ活動で緊張しながらも、無事に発表を行うことができました。

(4年・紙屋 柗色)



ゼミ後の懇親会では、研究や趣味などの話題で盛り上がりました。

2日目 あきたチャイルド園見学

合宿2日目の9月6日(火)は、あきたチャイルド園を見学しました。あきたチャイルド園は秋田市土崎港西にある保育園です。

園舎は、子ども自身が本来持っている「生きる力」「自ら育つ力」を援助する環境づくりをコンセプトに建築されており、東北建築賞特別賞、グッドデザイン賞、キッズデザイン賞を受賞しています。「子どもに媚びないデザイン」、「発達の連続性を考慮したオープンな保育ゾーン」、「森をイメージしたセンターパークと原っぱをイメージしたスカイパーク」を基本構想に設計されているとお話を伺いました。

(4年・小島 寛之)



建物の内部ではなく、森の中にあるようにした。



屋上にも遊べる空間があり、盛り土により自然の中を歩いている感覚でした。

壁をなくし自由に家具を配置し、園児の成長やその時々遊びによって空間構成ができるため、保育者も自由な発想が生まれやすいと感じました。



表紙の写真について・・・

香川県直島の宮ノ浦港近くにある銭湯として営業している美術施設。大竹伸朗氏によって手掛けられ、地元の観光協会と自治会が運営している。ボーダーレスな外観は人々を引き寄せ、島民と国内外からの来島者の交流の場となっている。

由利本荘石脇通りのイベント

たんころりん

昨年に引き続き都市アメニティ工学研究室は、石脇浴衣イベントに研究室活動として参加しました。研究室活動として主に行ったことは、昨年と同様「たんころりんの製作・指導」、「イベント当日の設営・売り子等の補助」、「研究室のパネル展」の3つです。昨年に比べ、たんころりんの製作では指導の側に重きを置き、活動しました。また、パネル展では今年からスタンプラリーにパネル展の欄を設けて頂くことで昨年より住民の方々に研究室の様子や活動を知って頂くことができました。



私は、石脇浴衣イベントの実行委員会に昨年参加し、学生代表という意識を持って活動してきましたが、今年から変わった点として、たんころりん製作のための資材調達や製作指導方法の検討等、昨年より一定の責任が伴うことに挑戦できたという点があります。責任がある以上、何をしようがより良いといった価値判断するということや、学生代表として学生が率先して住民を動かすということに難しさを感じることがありましたが、山口先生からの助言や住民の方々のおかげもあり、なんとかやり遂げることができました。

この経験を通して、学生代表として責任の一端を担うことで、感じたことがあります。それは、物事は誰かが価値判断等により決めたモノの上のみ成り立っているということです。言葉にしてしまえば至極当然だと思いますが、これは経験することで初めて分かることがあると感じました。



◀秋田舞妓による舞の披露

田屋での縁日の様子▶



来年のイベントは確定していませんが、恐らく在ります。そして、このイベントが学生代表として関われる最後の機会であり研究室の後輩に学生代表を引き継ぐ年でもあります。この石脇浴衣イベントに対して、後輩たちが如何にすれば興味を持って取り組み、経験として何かを持ち帰りやすい場となるか考えつつ、学生代表最後の年に臨みたいと思います。

(院1年・荒生竜也)

石脇インスタレーション

町家のインスタレーション

今年、教員4人による「地域再生に向けた景観形成方策の研究～由利本荘市石脇通りを対象として～」も同時に進められており、山口先生は町家を会場にしたインスタレーションを実施しました。



齊藤久一郎を借り、「石脇の灯り」をテーマに、竹のオブジェを中心とした空間を町家に挿入することで、石脇通りに新しい景観を創り出しました。来場者からは、「こんないい町家が石脇通りにあったのですね。」「土間にやわらかい光が合っていて美術館に来たようだ。」といった声が聞かれました。

(4年・小島寛之)

小広場のインスタレーション

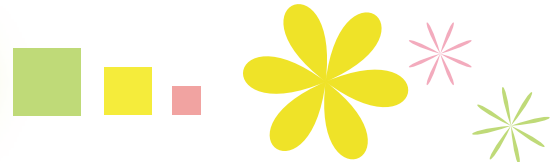
これまでの設計活動はコンピュータ画面とのにらめっこだったのに対して、本インスタレーション制作は実際の土地で行うことができる好機を頂いた。面白さや楽しさがある一方で、苦難したことが多々あった。とりわけ材料発注において、図面の仕上がり、工程の見通しによっては材料費や施工日が変わるリスクがあり、常に緊張感を持たなければならなかった。結果、多くの方々にご協力頂いたことで、特に問題はなくイベント当日を迎えることができた。制作物の完成の歓喜はもちろんのこと、イベントでは多くの方々に作品に触れて頂き、様々な意見や感想を頂いたことに感激した。本制作活動を通して、設計とは工程や材料等の制作過程全てを踏まえた線を引きなければならないことを実感した。この経験を元に再度設計について学んでいきたい。本活動が石脇地区の次のまちづくりの一端につながれば幸いである。



本制作に際して、材料提供に便宜を図って頂きました有限会社 佐東木材様、敷地提供にご協力頂きました後藤様、ご指導頂きました山口先生、板垣先生、石山先生、施工の際に手伝って頂きました同期、後輩の皆様がこの場を借りて、深く御礼申し上げます。

(院1年・田口真也)

平成28年度 建築学研修の成果



地下鉄開通に伴う駅周辺の土地利用変化に関する考察 — 仙台市地下鉄南北線泉中央駅を対象として —

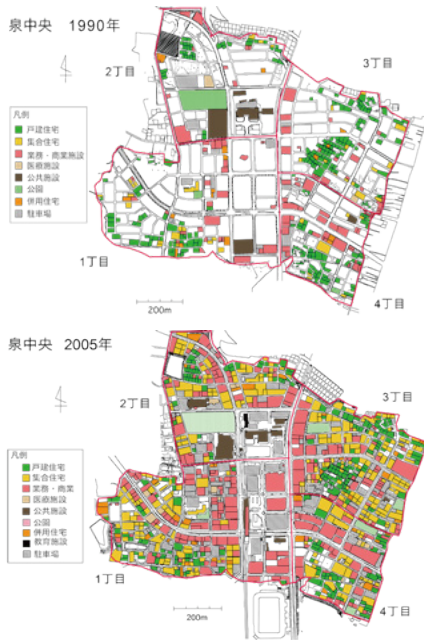
建築学研修では、仙台市地下鉄南北線の駅周辺における土地・建物の変化を調査・分析し、後期の卒業研究では東西線新駅の現状を把握し、今後の東西線の駅周辺地区の土地利用に対する示唆を得ることを目的とする。建築学研修の具体的な調査として、南北線の仙台市の北部の拠点として成熟した泉中央駅周辺を調査し、分析した。

結果として、以下のことを考察した。

(1) 泉中央の人口が増加しているのに対し、戸建住宅の数は1995年から減少傾向にある。従って、泉中央の人口増は集合住宅におけるものと言える。

(2) 未利用→駐車場→集合住宅、または業務・商業施設という用途の変化が多く見られた。

(3) 全体を見ると土地利用に関しては、合併前の泉市が昭和56年に策定した泉市全体構想図と比較すると、構想図に概ね合致している。



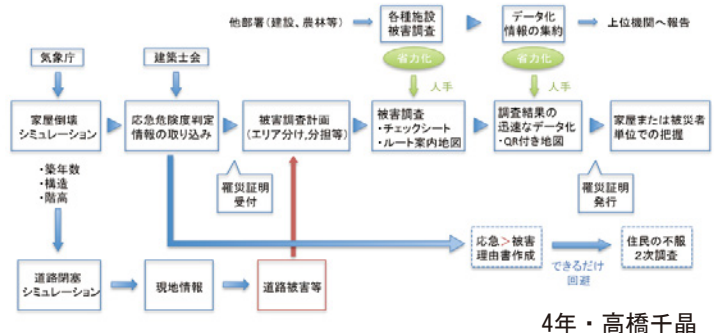
4年・佐藤基

時空間GISを用いた罹災証明発行業務支援の流れに対する一考察

災害時、自治体は救助や復旧に向けて迅速かつ的確な罹災証明の発行を求められる。しかし、大規模災害時には必ずしも十分に実現できているとは言えない。この問題への対応の一つとして、時空間GISを用いた罹災証明発行業務の高度化・高効率化について検討する。大規模災害が発生すると、予想外のことが次々起こり対応に翻弄されてしまう。そういった場合にも対応できるよう、日ごろからの事前準備や対応方法を決めておくことが大切と言える。

図は、本報で提案する時空間GISを用いた罹災証明発行の流れである。災害時と平常時の職員の業務には情報連携の体制に違いがある。平常時はそれぞれの課が各々の業務を独立的に遂行していく。災害時には、相互の組織的連携と迅速な対応が不可欠であり、情報の収集・伝達について役割分担が必要となる。この情報連携体制の確立に時空間GISが寄与している。

今回は、時空間GISを活用した、災害時の建物被害の情報管理体制と罹災証明発行の流れを検討した。今後は図上訓練を行い、罹災証明発行の流れ上で拡張すべき機能の仕様と職員に向けたマニュアルを作成していく。



4年・高橋千晶

時空間GISを用いた家屋情報の連携機能に関する一考察 泉谷 悠太



住宅用LCAツールへの組み込みを想定したライフステージ推定に関する一考察 紙屋 柁邑

地方都市におけるコンパクトシティ指標の検討 — 51都市の相对比较を通して — 小島 寛之

『子どもにやさしいまち』都市政策指標に関する一考察 — (その1) 自治体に対する調査対象項目の抽出 — 東海林 優介



都市計画道路整備事業のプロセスに伴う沿道住民の土地利用の以降の変化に関する考察 — 由利本荘市の大門・本町通りを対象として — 須田 一陽

『子どもにやさしいまち』都市政策指標に関する一考察 — (その2) 回答を得やすい調査項目への絞り込み — 土濃塚 拓



上海理工大学夏期留学



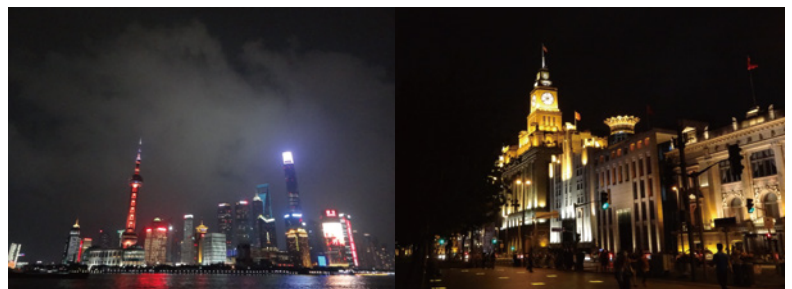
9月11日(日)から9月25日(日)までの15日間、私は上海理工大学に短期留学をしてきました。上海理工大学は80を超える国から1000人以上の留学生を受け入れており、本学とは大学間協定校の関係にあります。

現地では、学内見学、研究室訪問、講義の受講、日本文化の紹介、ドイツやスウェーデンの長期留学生との課外活動や日系企業訪問(KOKUYO)を行い、外国の大学の雰囲気を感じると同時に、国際感覚を得ることができました。特に日系企業訪問では、日本メーカーの特徴として供給責任の考えから商品数が多くなり(コクヨでは13万アイテム)、自社の商品が自社の他の商品を侵食してしまうことがあり、それを防ぐため、汎用性の高い部品を用いて商品開発を行っているというお話から、その地域に適した経営方針でビジネスを展開することの重要性を理解できました。

また、世界一高い展望台としてギネス認定されたShanghai World Financial Centerをはじめとする、めまぐるしい経済発展を象徴するに超高層建築物が立ち並ぶ浦東新区、歴史の残る外灘、明の時代に造られた庭園が残る豫園(よえん)など、上海の街を訪れて印象に残ったのは、新しく開発された地区のみならず、その土地の文脈を表す地区が残されており、上海の中心地には多様な空間が存在し、それが都市の魅力になっていることです。



豫園▶



▲ 浦東新区

▲ 外灘

◀ KOKUYO上海フラッグシップショールーム

留学全体を通して学んだことは、文化や習慣に多少の違いがあるだけで、礼儀、人間関係、勉学、研究に対する姿勢は国の違いによらず世界共通であると感じました。

最後に、このプログラムに協力していただいた全ての人に感謝申し上げます。

(4年・小島寛之)

NEW MEMBER!



1. 名前
2. 出身地
3. 抱負



1. 戸嶋大輔
2. 宮城県
3. 多くの知識を吸収し、幅広い視野で社会を見つめられる人間を目指します!



1. 大森彩世
2. 茨城県
3. 自分の都市に対する考え、興味を深く理解していきたいです!



1. 西田昂平
2. 秋田県
3. 都市・建築について深く追及していきたく思います!



1. 小倉理也
2. 岩手県
3. 分野を問わず様々な事から吸収して、高みを目指して励みたいです!



1. 斉藤鉄郎
2. 青森県
3. 笑顔で研究頑張ります! たくさんの人を頼ると思いますが、よろしくお願ひします!



1. 桂大志
2. 茨城県
3. 仲間と高めあって、日々成長できるように頑張ります!

JIA東海住宅建築賞2016大賞を受賞！！

OB・OGの 今

今回は、JIA東海住宅建築賞2016大賞を受賞された吉田さんから。おめでとうございます！！



みなさん、こんにちは。都市アメニティ工学研究室の3期生の吉田夏雄です。この度は、JIA 東海住宅建築賞 2016/大賞の受賞を特集して頂きありがとうございます。

僕は吉田夏雄建築設計事務所を主宰して住宅を中心に設計をしています。設計の魅力のひとつは、自分の生み出したものに作り手自身が現れることだと思っています。日々の生活の積み重ねが必ず反映されます。それって面白くて、恐ろしいことでもありますね。設計の仕事内容や設計事務所設立の方法などに興味のある方は、直接連絡して頂ければお話しさせていただきます。

残りは、僕が普段から心掛けていることについてお話させてもらいます。それは、自由を獲得することです。そもそも自由って？

社会人になり毎日時間に追われて働き続けていると、自由とは時間があることだと思っていました。ところが、退職して時間ができても全然自由ではありませんでした。理由はやりたいことができないからです。自由とは「やりたいことを実現する力を持つること」、「協力してくれる人がいること」、「応援してくれる人がいること」だと気づきました。それからは、自由になるために自分や人に対してどのように接するべきかを日々考えながら生活をしています。共感してくれる人がいたら、今日から日常の中で意識してみてください。特に自分の意見に賛同して、協力してくれる仲間を得ることはとても大切なことだと思います。なぜなら、ほとんどのことが、自分だけではできない事ばかりですからね。

JIA東海住宅建築賞
2016大賞：蔵前の家



吉田夏雄建築設計事務所
<http://natsuo-yoshida.com>

秋田県立大学
システム科学技術学部
建築環境システム学科
3期生 吉田 夏雄



ホームページで毎週のゼミの様子を公開中!!
<http://www.akita-pu.ac.jp/system/aes/amenity/>
(検索サイトから“都市アメニティ工学研究室”で検索)
NLのバックナンバーをHPからダウンロードできます



編集後記

先ずいつ、N.L. 16号の作成に際し、ご協力頂いた皆様に感謝申し上げます。さて、時が過ぎるのは早いもので2016年も残すところ二か月余りとなりました。こうして記事の編集作業をしていると、夏合宿や建築学研修発表という研究室での活動がつい最近のように感じます。しかし、それは当たり前前で、人間は年齢を重ねるにつれ、1年はその人の人生の長さとは比べ相対的に短くなる一方なので、時がたつのが早く感じるのでしょう。
<2016年10月吉日 N.L. 編集部> 小島寛之 高橋千晶 安藤みなみ 山口邦雄

OB・OGの皆さんへ

都市アメからのお願いです。ぜひぜひ、OB・OGのコメントへご協力お願いします。連絡は山口まで。

UAEL 編集部
〒015-0055

秋田県由利本荘市土谷海老ノ口
秋田県立大学システム技術学部建築環境システム学科
電話：0184-27-2053 mail:yamaguchi-k@akita-pu.ac.jp
担当 山口 邦雄